

第135回 病態生化学セミナー

日時：令和1年10月11日（金曜日）午後6時00分～

場所：医学部臨床小講堂

演題：グローバル化社会における感染症診療～熱帯医学・グローバルヘルスから学べること～

Management of infectious diseases in the era of globalization:
what we can learn from tropical medicine and global health"

演者：有吉 紅也 先生

長崎大学熱帯医学研究所 臨床感染症学分野 教授

長崎大学病院 感染症内科（熱研内科）教授

社会のあらゆる側面で、グローバル化は着実に加速しています。そして、医療界においてグローバル化の影響をもっとも受けているのが感染症領域です。それは、地方都市の医療人にとっても他人ごとではありません。今年、長崎県大村市の医療機関で起きた多剤耐性アシネトバクターのアウトブレイクは、そのひとつの事例です。原因となった菌は、熱帯地から持ち込まれたもので、その結果、地方都市の生命線である高度救命救急センターの長期閉鎖を余技なくされました。熱帯地で流行している感染症は、マラリアなどのいわゆる熱帯感染症だけではありません。本講義では、今、世界で何が起きているのか、どのような感染症に直面し、その背景にある要因は何か、そこにはどのような解決策はあるのか、そして、このようなグローバル化社会の感染症に対して、我々医療人が備えておかなければいけないことは何かについて、議論できればと思います。

【有吉 紅也】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp